

北信

シトラスリボン 思い込めて作る

小川小児童と保護者



授業で作ったシトラス
リボンを手にする親子

小川村の社会福祉協議会職員と民生児童委員が小川小学校を訪れ、新型コロナウィルスの感染者や医療従事者への偏見や差別をなくす願いを込めた「シトラスリボン」を見童や保護者と一緒に作つた。

子どもたちの福祉教育にリボンを活用している村社協が企画。職員と民生児童委員計3人が、4年生15人と保護者5人にリボン作りを教えた。社協の平野由莉さん(29)がリボンの意味を尋ねると、事前学習して見た児童たちは「三つの輪は地域、職場、

家庭の意味」などと回答。その後、平野さんに教わりながら指にひもを巻き付け、緑やオレンジのリボンを作つて服に安全ピンで留めたり髪に飾つたりした。酒井瑠羅さんは「もし友達が新型コロナにかかりても、戻ってきたらいつも通り一緒に遊びたい」と話した。

村では、民生児童委員が「思いやりのある地域」を願つて2020年12月からシトラスリボン約千個を作り、村職員に配つたり公民館や道の駅に置いたりしている。